株式会社 レゾナック・ホールディングス

2026年11月11日発表

2026年12月期 第3四半期決算要約 (IFRS)

1. 当第3四半期の業績 (1月～9月累計)

① 業績概要

(単位:億円)

項目	2025年 第3四半期累計 (1月～9月)	2026年 第3四半期累計 (1月～9月)	増減	[通期業績予想] 2026年 通期業績予想 (1月～12月)
売上収益	7,635	8,719	1,084	12,350
コア営業利益	695	1,641	946	2,500
営業利益	184	1,484	1,300	1,150
税引前四半期利益	164	1,445	1,281	1,110
継続事業からの四半期利益	43	1,043	1,000	850
非継続事業からの四半期利益	28	△88	△117	△88
親会社の所有者に帰属する四半期利益	60	946	886	750

2025年12月期第3四半期累計についても、遡及してクラサスケミカルセグメントを非継続事業に組替えて表示しております。

*通期予想は2026年11月11日公表

② セグメント別 売上収益・コア営業利益

(単位:億円)

セグメント		2025年 第3四半期累計 (1月～9月)	2026年 第3四半期累計 (1月～9月)	増減	2026年 通期業績予想 (1月～12月)
半導体・電子材料	売上収益	3,657	5,008	1,351	7,350
	コア営業利益	740	1,586	846	2,480
モビリティ	売上収益	1,321	1,217	△ 104	1,590
	コア営業利益	20	48	28	49
イノベーション材料	売上収益	679	753	74	1,000
	コア営業利益	81	96	15	126
ケミカル	売上収益	1,259	1,419	160	1,980
	コア営業利益	△ 74	15	89	45
その他・調整額	売上収益	719	322	△ 397	430
	コア営業利益	△ 72	△ 104	△ 32	△ 200
継続事業合計	売上収益	7,635	8,719	1,084	12,350
	コア営業利益	695	1,641	946	2,500

2025年12月期第3四半期累計についても、遡及してクラサスケミカルセグメントを非継続事業に組替えて表示しております。

*通期予想は2026年11月11日公表

③ セグメント別 売上収益・コア営業利益 四半期推移

(単位:億円)

セグメント		2026年 第1四半期 (1月～3月)	2026年 第2四半期 (4月～6月)	2026年 第3四半期 (7月～9月)
半導体・電子材料	売上収益	1,347	1,643	2,018
	コア営業利益	340	475	771
モビリティ	売上収益	473	373	371
	コア営業利益	29	14	6
イノベーション材料	売上収益	227	273	253
	コア営業利益	24	39	33
ケミカル	売上収益	408	510	501
	コア営業利益	△ 16	10	21
その他・調整額	売上収益	106	108	108
	コア営業利益	△ 36	△ 29	△ 39
継続事業合計	売上収益	2,562	2,906	3,251
	コア営業利益	342	508	792

④ 参考数値

項目	2025年 第3四半期累計 (1月～9月)	2026年 第3四半期累計 (1月～9月)	増減
為替レート(円/US$)	148.2	158.5	10.3円安

(単位:億円)

項目	2025年12月末	2026年9月末	増減
総資産	21,067	21,733	666
有利子負債残高	9,695	8,017	△1,678

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。なお、法令に定めのある場合を除き、当社はこれらの将来予測に基づく記述を更新する義務を負いません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、世界的な政治情勢、経済情勢、規制の強化、製品の需要動向及び市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

2026年12月期　第３四半期決算短信〔ＩＦＲＳ〕（連結）

2026年11月11日

上場会社名　　株式会社レゾナック・ホールディングス　　上場取引所　東
コード番号　　4004　　ＵＲＬ　https://www.resonac.com/jp
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）高橋　秀仁
問合せ先責任者　（役職名）資本戦略部長　　（氏名）藤崎　一彦　　https://www.resonac.com/jp/inquiry

配当支払開始予定日　　ー
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有（証券アナリスト、機関投資家向け）

（百万円未満四捨五入）

１．2026年12月期第３四半期の連結業績（2026年１月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上収益		コア営業利益		営業利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第３四半期	871,853	14.2	164,137	136.2	148,350	708.3	95,422	ー	94,640	ー	98,183	ー
2025年12月期第３四半期	763,486	ー	69,505	ー	18,354	ー	7,093	△89.2	6,036	△90.7	△7,886	ー

（参考）税引前四半期利益　　2026年12月期第３四半期　144,475百万円（780.0%）　2025年12月期第３四半期　16,417百万円（ー%）

（注）１．コア営業利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益を除いて算出しております。

２．当社は、石油化学事業を営む当社の完全子会社であったクラサスケミカル株式会社（以下、「クラサスケミカル」といいます。）のパーシャル・スピンオフ（以下、「本スピンオフ」といいます。）を2026年10月１日付で実行しました。本スピンオフの実行方針に係る2026年７月６日の経営会議決議に伴い、2026年12月期第３四半期連結会計期間より、国際財務報告基準（IFRS）に従い、クラサスケミカルセグメントを非継続事業に分類しております。これに伴い、売上収益、コア営業利益、営業利益及び税引前四半期利益について、非継続事業を除いた継続事業の金額を表示し、四半期利益及び親会社の所有者に帰属する四半期利益は、継続事業及び非継続事業の合算を表示しております。なお、2025年12月期第３四半期についても同様に組み替えて表示しているため、売上収益、コア営業利益、営業利益及び税引前四半期利益の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

	基本的１株当たり四半期利益	希薄化後１株当たり四半期利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第３四半期	513.96	468.08
2025年12月期第３四半期	33.37	33.37

（２）連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に帰属する持分	親会社所有者帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2026年12月期第３四半期	2,173,299	792,111	775,817	35.7
2025年12月期	2,106,723	727,613	698,852	33.2

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	ー	0.00	ー	65.00	65.00
2026年12月期	ー	0.00	ー		
2026年12月期（予想）				65.00	65.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

当社は、前述の本スピンオフの実行により、2026年９月30日を基準日として、同日の当社株主名簿に記録された株主の保有する当社普通株式１株につき、クラサスケミカルの普通株式（以下、「クラサスケミカル株式」といいます。）１株の割合で現物配当を行いましたが、上記の配当の状況には、係る現物配当は含めておりません。現物配当の詳細については、後述の「【ご参考】現物配当（金銭以外の財産による配当）の概要」をご参照ください。

３．2026年12月期の連結業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上収益		コア営業利益		営業利益		当期利益		親会社の所有者に帰属する当期利益		基本的１株当たり当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,235,000	18.0	250,000	139.4	115,000	172.1	76,200	145.4	75,000	158.3	403.86

（参考）税引前当期利益　　通期 111,000百万円（179.8%）

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結経営成績と同様に、売上収益、コア営業利益、営業利益及び税引前当期利益は継続事業の金額を表示しており、対前期増減率についても継続事業の前期金額に対する増減率を記載しております。

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

新規　－社　（社名）　、除外　－社　（社名）

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更

①　ＩＦＲＳにより要求される会計方針の変更：無

②　①以外の会計方針の変更　　：無

③　会計上の見積りの変更　　：無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期３Ｑ	191,822,299株	2025年12月期	184,901,292株
②　期末自己株式数	2026年12月期３Ｑ	1,446,174株	2025年12月期	3,918,394株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期３Ｑ	184,138,150株	2025年12月期３Ｑ	180,855,779株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：有（任意）

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、【添付資料】４ページ「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【ご参考】現物配当（金銭以外の財産による配当）の概要

(1) 基準日	2026年９月30日（水曜日）
(2) 配当財産の種類	クラサスケミカル株式
(3) 配当財産の帳簿価額の総額及び１株当たり価額	37,989,829,147円（１株当たり199.02円）
(4) 配当財産の時価の総額及び１株当たり価額	－ ※
(5) 効力発生日	2026年10月１日（木曜日）

※日本の会計基準に基づく当社の個別財務諸表において、本スピンオフは、現物配当の効力発生日時点における配当財産の適正な帳簿価額をもって会計処理を行っており、当社の分配可能額の算出においても同様です。したがって、配当財産であるクラサスケミカル株式の時価は記載しておりません。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当四半期の経営成績の概況 …… 2
（２）当四半期の財政状態の概況 …… 4
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．要約四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）要約四半期連結財政状態計算書 …… 5
（２）要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書 …… 7
（３）要約四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（作成の基礎） …… 9
（表示方法の変更） …… 9
（セグメント情報） …… 9
（親会社の所有者に帰属する持分の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 11
（継続企業の前提に関する注記） …… 11
（要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 11
（非継続事業） …… 12
（重要な後発事象） …… 13

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書 …… 14

１．経営成績等の概況

（１）当四半期の経営成績の概況

１）当期の経営成績

当第３四半期連結累計期間（2026年１月～９月）の世界経済は、引き続き中東情勢による影響が懸念されるなか、全体としては緩やかに回復しました。半導体業界については、AI等の先端用途を中心に着実な成長が見られました。国内経済は、個人消費や企業の設備投資に持ち直しの動きが見られ、全体として緩やかに回復しました。

当社は、石油化学事業を営む当社の完全子会社であったクラサスケミカル株式会社のパーシャル・スピンオフ（以下、「本スピンオフ」といいます。）を2026年10月１日付で実行しました。本スピンオフの実行方針に係る2026年７月６日の経営会議決議に伴い、IFRS第５号「売却目的で保有する非流動資産及び非継続事業」に基づき当第３四半期連結会計期間より、クラサスケミカルセグメントを非継続事業に分類しております。これに伴い、売上収益、コア営業利益、営業利益及び税引前四半期利益について、期首より非継続事業を除いた継続事業の金額を表示し、四半期利益及び親会社の所有者に帰属する四半期利益は、継続事業及び非継続事業の合算を表示しております。なお、前年同四半期連結累計期間についても同様に組み替えて表示しております。

当第３四半期連結累計期間における売上収益は、自動車成形部材事業の譲渡影響があったモビリティセグメントは減収となりましたが、先端半導体用途を中心に好調が続く半導体・電子材料セグメントをはじめとして、イノベーション材料セグメント、ケミカルセグメントは増収となり、総じて増収となる8,718億53百万円となりました。コア営業利益は、全てのセグメントで増益となり1,641億37百万円となりました。営業利益は、前年同期に計上したFiamm Energy Technology S.p.A.などの複数事業譲渡の意思決定に伴う減損損失等の影響がなくなったことに加え、コア営業利益の増益により1,483億50百万円となりました。営業利益の増益等により、親会社の所有者に帰属する四半期利益は946億40百万円となりました。

（単位：百万円）

	2025年 第３四半期累計 （１－９月）	2026年 第３四半期累計 （１－９月）	増減	増減率
売上収益	763,486	871,853	108,367	14.2%
コア営業利益	69,505	164,137	94,632	136.2%
営業利益	18,354	148,350	129,996	708.3%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	6,036	94,640	88,604	－

（注）　コア営業利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益（その他の収益、その他の費用及び減損損失（売上原価、販売費及び一般管理費に含まれます。））を除いて算出しております。

２）セグメント別概況（2026年１月～９月）

【半導体・電子材料セグメント】

当セグメントでは、半導体前工程材料はメモリ市況が回復基調にあり増収となりました。半導体後工程材料は、主にAI等の先端半導体向けの販売数量増加により増収となりました。デバイスソリューションは、HDメディアはデータセンター向け需要が堅調に推移し、SiCエピタキシャルウェハーは一部顧客の需要増もあり、増収となりました。

この結果、当セグメントは前年同期比で増収増益となりました。

（単位：百万円）

	2025年 第３四半期累計 （１－９月）	2026年 第３四半期累計 （１－９月）	増減	増減率
売上収益	365,672	500,750	135,078	36.9%
コア営業利益	73,986	158,626	84,640	114.4%

【モビリティセグメント】

当セグメントは、当４～６月期での自動車成形部材事業の譲渡影響があったものの、一部顧客による需要増により前年同期比で減収増益となりました。

（単位：百万円）

	2025年 第３四半期累計 （１－９月）	2026年 第３四半期累計 （１－９月）	増減	増減率
売上収益	132,105	121,695	△10,410	△7.9%
コア営業利益	2,032	4,843	2,811	138.3%

【イノベーション材料セグメント】

当セグメントは、製品ごとの濃淡はありながらも堅調に推移し、前年同期比で増収増益となりました。

（単位：百万円）

	2025年 第３四半期累計 （１－９月）	2026年 第３四半期累計 （１－９月）	増減	増減率
売上収益	67,936	75,314	7,378	10.9%
コア営業利益	8,091	9,559	1,468	18.1%

【ケミカルセグメント】

当セグメントでは、化学品は、一部製品の原価上昇を受けた価格改定等により増収増益となりました。グラファイトは、黒鉛電極の販売数量の回復により増収、加えて構造改革効果の顕現により赤字が縮小しました。

この結果、当セグメントは前年同期比で増収・黒字転換となりました。

（単位：百万円）

	2025年 第３四半期累計 （１－９月）	2026年 第３四半期累計 （１－９月）	増減	増減率
売上収益	125,893	141,909	16,016	12.7%
コア営業利益	△7,399	1,518	8,917	―

（２）当四半期の財政状態の概況

当第３四半期連結会計期間末の資産合計は、主に現金及び現金同等物や所有者分配目的保有に分類された資産が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ665億76百万円増加の2兆1,732億99百万円となりました。負債合計は、有利子負債残高は減少したものの、現物配当に係る未払債務や所有者分配目的保有に分類された負債が増加したこと等により、前連結会計年度末比20億78百万円増加の1兆3,811億88百万円となり、ほぼ横ばいとなりました。資本合計は、利益剰余金の増加に加え、転換社債型新株予約権付社債の転換に伴う資本金・資本剰余金の増加により、前連結会計年度末比644億98百万円増加の7,921億11百万円となりました。

なお、クラサスケミカルのパーシャル・スピンオフに伴い、石油化学事業に関連する資産及び負債は、「所有者分配目的保有に分類された資産」及び「所有者分配目的保有に分類された負債」に分類しております。

（単位：百万円）

	前連結会計年度末	当第３四半期 連結会計期間末	増減
資産合計	2,106,723	2,173,299	66,576
負債合計	1,379,110	1,381,188	2,078
資本合計	727,613	792,111	64,498

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、本日（11月11日）連結業績予想の修正を公表しております。業績予想の前提等につきましては、11月11日発表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

（単位：百万円）

	売上収益	コア営業利益	営業利益	税引前当期利益	当期利益	親会社の所有者に帰属する当期利益
前回予想（８/６）	1,165,000	196,000	160,000	158,000	114,000	112,500
今回予想（11/11）	1,235,000	250,000	115,000	111,000	76,200	75,000
増減	70,000	54,000	△45,000	△47,000	△37,800	△37,500
増減率	6.01%	27.55%	△28.13%	△29.75%	△33.16%	△33.33%

２．要約四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）要約四半期連結財政状態計算書

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2025年12月31日）	当第３四半期連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び現金同等物	261,971	274,464
売上債権	280,230	247,395
棚卸資産	206,058	205,334
未収法人所得税	3,504	3,496
その他の金融資産	32,051	22,392
その他の流動資産	33,749	35,153
小計	817,563	788,234
売却目的で保有する資産	35,416	－
所有者分配目的保有に分類された資産	－	207,426
流動資産合計	852,979	995,660
非流動資産		
有形固定資産	662,921	615,276
無形資産	410,716	399,435
退職給付に係る資産	49,446	40,731
繰延税金資産	13,607	11,234
持分法で会計処理されている投資	71,543	68,116
その他の金融資産	22,237	20,669
その他の非流動資産	23,274	22,178
非流動資産合計	1,253,744	1,177,639
資産合計	2,106,723	2,173,299

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2025年12月31日）	当第３四半期連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
仕入債務	162,757	146,029
社債及び借入金	169,611	118,850
未払費用	41,507	44,859
未払法人所得税	8,693	39,087
リース負債	4,452	4,506
引当金	1,313	603
現物配当に係る未払債務	―	49,630
その他の金融負債	51,152	38,036
その他の流動負債	23,962	25,849
小計	463,447	467,449
売却目的で保有する資産に直接関連する負債	9,589	―
所有者分配目的保有に分類された負債	―	139,393
流動負債合計	473,036	606,842
非流動負債		
社債及び借入金	777,010	663,238
退職給付に係る負債	7,296	7,147
引当金	4,427	4,222
リース負債	18,454	15,124
その他の金融負債	7,803	7,523
繰延税金負債	70,473	55,008
その他の非流動負債	20,611	22,084
非流動負債合計	906,074	774,346
負債合計	1,379,110	1,381,188
資本の部		
資本金	182,146	197,756
資本剰余金	108,681	126,826
自己株式	△12,409	△5,570
利益剰余金	343,574	377,497
その他の包括利益累計額	76,860	79,308
親会社の所有者に帰属する持分合計	698,852	775,817
非支配持分	28,761	16,294
資本合計	727,613	792,111
負債及び資本合計	2,106,723	2,173,299

（２）要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

（要約四半期連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
継続事業		
売上収益	763,486	871,853
売上原価	△546,547	△541,261
売上総利益	216,939	330,592
販売費及び一般管理費	△186,868	△167,345
その他の収益	14,604	8,144
その他の費用	△26,321	△23,041
営業利益	18,354	148,350
金融収益	3,149	3,441
金融費用	△11,790	△14,038
持分法による投資利益	6,704	6,722
税引前四半期利益	16,417	144,475
法人所得税費用	△12,142	△40,219
継続事業からの四半期利益	4,275	104,256
非継続事業		
非継続事業からの四半期利益（△は損失）	2,818	△8,834
四半期利益	7,093	95,422
四半期利益（△は損失）の帰属		
親会社の所有者	6,036	94,640
継続事業からの四半期利益	3,999	103,533
非継続事業からの四半期利益（△は損失）	2,037	△8,893
非支配持分	1,057	782
継続事業からの四半期利益	276	723
非継続事業からの四半期利益	781	59
１株当たり四半期利益		
基本的１株当たり四半期利益（△は損失）（円）	33.37	513.96
継続事業	22.11	562.26
非継続事業	11.26	△48.30
希薄化後１株当たり四半期利益（△は損失）（円）	33.37	468.08
継続事業	22.11	511.83
非継続事業	11.26	△43.75

（要約四半期連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
四半期利益	7,093	95,422
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
FVTOCIの金融資産の公正価値の純変動額	△1,273	512
確定給付制度の再測定	△5	△47
持分法によるその他の包括利益	101	5
合計	△1,177	470
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	△13,147	2,293
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変動額	157	△66
持分法によるその他の包括利益	△812	64
合計	△13,802	2,291
その他の包括利益合計	△14,979	2,761
四半期包括利益	△7,886	98,183
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	△8,590	97,766
非支配持分	704	417

（３）要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

（作成の基礎）

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第５条第２項（ただし、同基準第５条第５項に定める記載の省略を適用）に準拠して作成しており、国際会計基準第34号「期中財務報告」で求められる開示項目及び注記の一部を省略しております。

（表示方法の変更）

当社は、IFRS第５号「売却目的で保有する非流動資産及び非継続事業」に基づき当第３四半期連結会計期間より、クラサスケミカルセグメントを非継続事業に分類しております。この結果、当第３四半期連結累計期間の表示形式に合わせ、前第３四半期連結累計期間の要約四半期連結損益計算書及び関連する要約四半期連結財務諸表に関する注記事項の一部を組み替えて表示しております。

（セグメント情報）

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績評価のために定期的に検討を行う対象としているものであります。

当社は、主に事業部を基礎とした製品・商品別のセグメントから構成されており、製品の種類・性質、製造方法、販売市場等の類似性に基づき、複数の事業セグメントを集約し、「半導体・電子材料」、「モビリティ」、「イノベーション材料」、「ケミカル」の４つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントに属する主要製品・商品は、下表のとおりであります。なお、「クラサスケミカル」セグメントを非継続事業に分類し、前第３四半期連結累計期間及び当第３四半期連結累計期間のセグメント情報から除外しております。非継続事業の詳細については、注記（非継続事業）をご参照ください。

報告セグメント	サブセグメント	主要製品・商品等
半導体・電子材料	半導体前工程材料	電子材料用高純度ガス、半導体回路平坦化用研磨材料（CMPスラリー）
	半導体後工程材料	エポキシ封止材、ダイボンディング材料（DAF、NCF）、銅張積層板、感光性フィルム、感光性ソルダーレジスト、高熱伝導材料（TIM）
	デバイスソリューション	HDメディア、SiCエピタキシャルウェハー
モビリティ	－	樹脂成形品、摩擦材、粉末冶金製品、アルミ機能部材
イノベーション材料	－	樹脂材料
		機能性化学品（合成樹脂エマルジョン、不飽和ポリエステル樹脂）
		コーティング材料
		セラミックス（アルミナ、研削研磨材、ファインセラミックス）
ケミカル	化学品	基礎化学品（液化アンモニア、アクリロニトリル、アミノ酸、苛性ソーダ、塩素、合成ゴム）
		産業ガス（液化炭酸ガス、ドライアイス、酸素、窒素、水素）
	グラファイト	黒鉛電極、カーボン負極材

(2) 報告セグメントの売上収益及び損益の金額の算定方法

事業セグメントの会計処理方法は、要約四半期連結財務諸表を作成するために採用される会計方針に準拠した方法であります。

報告セグメントの損益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益を除いて算出したコア営業利益で表示しております。なお、非経常的な要因により発生した損益とは、その他の収益、その他の費用及び減損損失（売上原価、販売費及び一般管理費に含まれます。）であります。

セグメント間の売上収益は概ね市場実勢価格に基づいております。

(3) 報告セグメントの売上収益及び損益の金額に関する情報

前第３四半期連結累計期間（自　2025年１月１日　至　2025年９月30日）

（単位：百万円）

項目	報告セグメント					その他（注）１	調整額（注）２	合計
	半導体・電子材料	モビリティ	イノベーション材料	ケミカル	計			
売上収益								
外部顧客への売上収益	365,672	132,105	67,936	125,893	691,606	71,880	－	763,486
セグメント間の売上収益	3,576	675	9,287	8,081	21,619	5,173	△26,792	－
合計	369,248	132,780	77,223	133,974	713,225	77,053	△26,792	763,486
セグメント損益（コア営業利益）	73,986	2,032	8,091	△7,399	76,710	2,674	△9,879	69,505

（注）１　「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない製造・販売等の事業を含んでおります。

２　セグメント損益の調整額△9,879百万円には、セグメント間取引消去101百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△9,980百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない全社共通研究開発費等であります。

当第３四半期連結累計期間（自　2026年１月１日　至　2026年９月30日）

（単位：百万円）

項目	報告セグメント					その他（注）１	調整額（注）２	合計
	半導体・電子材料	モビリティ	イノベーション材料	ケミカル	計			
売上収益								
外部顧客への売上収益	500,750	121,695	75,314	141,909	839,668	32,185	－	871,853
セグメント間の売上収益	4,506	420	10,239	9,043	24,208	5,858	△30,066	－
合計	505,256	122,115	85,553	150,952	863,876	38,043	△30,066	871,853
セグメント損益（コア営業利益）	158,626	4,843	9,559	1,518	174,546	4,670	△15,079	164,137

（注）１　「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない製造・販売等の事業を含んでおります。

２　セグメント損益の調整額△15,079百万円には、セグメント間取引消去321百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△15,400百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない全社共通研究開発費等であります。

セグメント損益から税引前四半期利益への調整は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
セグメント損益（コア営業利益）	69,505	164,137
減損損失	△39,434	△890
その他の収益	14,604	8,144
その他の費用	△26,321	△23,041
営業利益	18,354	148,350
金融収益	3,149	3,441
金融費用	△11,790	△14,038
持分法による投資利益	6,704	6,722
税引前四半期利益	16,417	144,475

（親会社の所有者に帰属する持分の金額に著しい変動があった場合の注記）

（クラサスケミカル株式会社の普通株式の現物配当）

2026年８月25日の取締役会決議において、当社が保有するクラサスケミカル株式会社（以下、「クラサスケミカル」といいます。）の普通株式（以下、「クラサスケミカル株式」といいます。）のうちの一部を、現物配当により当社株主に分配することを決議したことにより、分配予定の持分の公正価値に相当する金額について、利益剰余金を減額するとともに未払配当金を計上しました。2026年９月30日における未払配当金の金額は49,630百万円です。当該金額は、要約四半期連結財政状態計算書上、現物配当に係る未払債務に計上されております。

（転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の行使）

当第３四半期連結累計期間において、2024年５月13日に発行した2028年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債に付された新株予約権の権利行使により、新株式の発行と自己株式の処分を行い、資本金が15,610百万円増加、資本剰余金が17,631百万円増加し、自己株式が7,313百万円減少しました。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第３四半期連結累計期間に係る要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。第３四半期連結累計期間に係る減価償却費及び償却費は、以下のとおりであります。なお、非継続事業に関する減価償却費及び償却費を含んでおります。

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
減価償却費及び償却費	71,040	68,001

（非継続事業）

当社は、2026年７月６日開催の経営会議において、石油化学事業を営む当社の完全子会社であるクラサスケミカルのパーシャル・スピンオフ（以下、「本スピンオフ」といいます。）を実行することについて、2026年８月下旬の取締役会に付議する方針を決定しました。その後、2026年８月25日開催の取締役会において、本スピンオフを2026年10月１日付で実行することを決議しました。2026年10月１日付で本スピンオフを実行したことにより、2026年９月30日を基準日として、同日の当社株主名簿に記録された株主の保有する当社普通株式１株につき、クラサスケミカル株式１株の割合で現物配当を行い、当社が保有するクラサスケミカル株式の持分比率は18.57%となりました。

2026年７月６日の本スピンオフの方針に係る決議に伴い、クラサスケミカル株式の分配の可能性が非常に高いと判定し、IFRS第５号「売却目的で保有する非流動資産及び非継続事業」に従い、クラサスケミカルセグメントを非継続事業に分類しました。その結果、要約四半期連結損益計算書において、クラサスケミカルセグメントの収益及び費用を、クラサスケミカルセグメントを除く継続事業と区分し、非継続事業からの四半期利益として表示しております。また、要約四半期連結財政状態計算書においては、クラサスケミカルセグメントの資産及び負債を所有者分配目的で保有する処分グループに分類しました。

(1) 所有者分配目的保有に分類された処分グループ

（単位：百万円）

項目	当第３四半期連結会計期間末 （2026年９月30日）
所有者分配目的保有に分類された資産	
売上債権	61,742
棚卸資産	46,811
有形固定資産	55,517
その他	43,356
合計	207,426
所有者分配目的保有に分類された負債	
仕入債務	45,330
社債及び借入金	72,820
その他	21,243
合計	139,393

所有者分配目的保有に分類された処分グループに直接関連するその他の包括利益累計額は359百万円であります。

(2) 非継続事業の損益

（単位：百万円）

項目	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
非継続事業の損益		
収益	224,185	226,562
費用（注）	△220,397	△234,678
非継続事業からの税引前四半期利益（△は損失）	3,788	△8,116
法人所得税費用	△970	△718
非継続事業からの四半期利益（△は損失）	2,818	△8,834

（注）　当第３四半期連結累計期間において、所有者分配目的保有に分類された処分グループを、売却コスト控除後の公正価値で測定したことにより認識した減損損失11,586百万円が含まれております。

（重要な後発事象）

（石油化学事業のパーシャル・スピンオフの実行）

当社は、2026年10月１日付で本スピンオフを実行しました。これにより、当社はクラサスケミカル株式会社に対する支配を喪失しました。本スピンオフ後も当社はクラサスケミカル株式会社の株式の一部を保有しておりますが、当該株式については持分法を適用せず、IFRS第９号「金融商品」に基づき、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融商品（FVTOCI）に指定しております。なお、当第３四半期連結会計期間末において、連結財政状態計算書の「所有者分配目的保有に分類された資産」及び「所有者分配目的保有に分類された負債」にそれぞれ207,426百万円、139,393百万円計上されています。また、本スピンオフの実行により計上が見込まれる支配喪失に伴う損益に重要性はありません。

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年11月11日

株式会社レゾナック・ホールディングス
　取締役会　御中

有限責任 あずさ監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	武　久　善　栄
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	岩　宮　晋　伍
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中　島　悠　史

監査人の結論
　当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている株式会社レゾナック・ホールディングスの2026年１月１日から2026年12月31日までの連結会計年度の第３四半期連結会計期間（2026年７月１日から2026年９月30日まで）及び第３四半期連結累計期間（2026年１月１日から2026年９月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。
　当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第５条第２項（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第５条第５項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠
　当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

強調事項
　要約四半期連結財務諸表に関する注記事項（重要な後発事象）における（石油化学事業のパーシャル・スピンオフの実行）に記載されているとおり、会社は、石油化学事業を営む完全子会社であったクラサスケミカル株式会社のパーシャル・スピンオフを2026年10月１日付で実行した。
　当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第５条第２項（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第５条第５項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第５条第２項（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第５条第５項に定める記載の省略が適用されている。）に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

要約四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第５条第２項（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第５条第５項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
・要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第５条第２項（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第５条第５項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
・要約四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。

監査人は、要約四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

（注）１．上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。
２．XBRL データ及び HTML データは期中レビューの対象には含まれていません。